

社会調査の基礎

問題 84 社会調査に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 社会調査は、個人ではなく、組織や機関が実施するものである。
- 2 社会調査は、市場調査や世論調査を含まず、行政調査と学術調査を指している。
- 3 国勢調査の対象者は、日本に居住する日本国籍をもつ人に限定されている。
- 4 社会問題の解決のために実施する調査は、社会踏査(social survey)と呼ばれる。
- 5 社会調査の分析対象は、数量的データに限定されている。

問題 85 統計法に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 行政機関の長は、一定の要件を満たす学術研究に対して調査票情報を提供することができる。
- 2 行政機関の長は、基幹統計調査のデータを加工して、匿名データを自由に作成できる。
- 3 個人情報の秘密漏えいに関する罰則は定められていない。
- 4 厚生労働省が実施する社会福祉施設等調査は、基幹統計調査である。
- 5 一般統計調査には、基幹統計調査も含まれる。

問題 86 標本調査に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 標本調査では、非標本誤差は生じない。
- 2 標本抽出には、性別や年齢といった母集団の特性を基準にする抽出法がある。
- 3 標準誤差は、質問の意味の取り違い、回答忘れなど、回答者に起因する。
- 4 系統抽出法では、抽出台帳に規則性がない場合、標本に偏りが生じる。
- 5 確率抽出法では、標本誤差は生じない。

問題 87 社会調査における測定と尺度に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 信頼性とは、測定しようとする概念をどのくらい正確に把握できているかを意味する。
- 2 妥当性とは、同じ調査を再度行ったときに、どのくらい類似した結果を得ているかを意味する。
- 3 順序尺度では、大小や優劣を測定できる。
- 4 間隔尺度の例として、身長や体重がある。
- 5 比例尺度の方が、間隔尺度よりも情報量が多い。

問題 88 質問紙を作成する際の留意点に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 回答者の理解を促進するため、ワーディングはできるだけ多くの専門用語を用いることが望ましい。
- 2 回答者の回答を容易にするため、一つの質問に複数の論点を含む質問文を作成することが望ましい。
- 3 配布した質問紙の回収後の集計作業を効率的に行うため、自由回答法を多く用いることが望ましい。
- 4 選択枝法を用いる場合は、想定される回答を網羅するため、選択枝の内容が相互に重複していることが望ましい。
- 5 作成した質問紙の構成や内容が適切かを検討するため、プリテストを実施することが望ましい。

問題 89 参与観察に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 調査中に対象者が意識しないように、調査終了後に観察していたことを伝える。
- 2 観察の記録は、現地で見聞きしたことについて、網羅的に記すことが原則である。
- 3 観察を通して現地で得た聞き取りの録音データの文字起こし作業に当たっては、録音データの中から調査者が気になった部分や必要だと思う部分を抽出し、要約する作業を最初に行う。
- 4 現地で記録したメモは、できるだけ早く観察ノートに記録する。
- 5 観察ノートを整理する際は、調査者の感想を記さないように留意する。

問題 90 Q市社会福祉協議会では、地域の潜在的な福祉ニーズを探索するため、地域住民向けのワークショップを開催した。参加者が、KJ法を参考に意見を整理することとした。

次の記述のうち、参加者が行う意見整理の進め方として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 参加者は、一つのカードに様々な自分の意見をできるだけ多く書き出す。
- 2 提出したカードを並べた後、全体を眺めながら内容が類似しているものをグループとしてまとめる。
- 3 グループ化する際は、カードが1枚だけで残ることがないように、いずれかのグループに割り当てる。
- 4 各々のグループに名前を付ける際には、福祉に関する専門用語を用いなければならない。
- 5 グループに名前を付けた後、グループ間の相互関係を検討し、図解する。